

CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	愛知県日野自動車小牧営業所	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県小牧市新小本三丁目12番,13番,14番,17番	構造	S造
用途地域	準工業地域・指定なし(法第22条区域)	平均居住人員	70人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,450時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年7月 予定	評価の実施日	2023年10月12日
敷地面積	15,186 m ²	作成者	櫻木博章
建築面積	3,112 m ²	確認日	2023年10月13日
延床面積	3,641 m ²	確認者	櫻木博章



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.9 ★★☆☆☆

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.4

項目	スコア
Q1 室内環境	2.8
Q2 サービス性能	3.2
Q3 室外環境(敷地内)	1.5

LR のスコア = 3.3

項目	スコア
LR1 エネルギー	3.7
LR2 資源・マテリアル	3.0
LR3 敷地外環境	3.1

3 重点項目

①地球温暖化への配慮	3.7	③敷地内の緑化	1.0
②資源の有効活用	2.9	④地域材の活用	1.0

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
愛知県日野自動車小牧営業所

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:
■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体	
	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能										
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備										
3.2 グレア対策										
1 昼光制御										
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ										
1 広さ・収納性										
2 高度情報通信設備対応										
3 バリアフリー計画										
1.2 心理性・快適性										
1 広さ感・景観 (天井高)										
2 リフレッシュスペース										
3 内装計画										
1.3 維持管理										
1 維持管理に配慮した設計										
2 維持管理用機能の確保										
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振										
1 耐震性(建物のこわれにくさ)										
2 免震・制震・制振性能										
2.2 部品・部材の耐用年数										
1 躯体材料の耐用年数										
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔										
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔										
4 空調換気ダクトの更新必要間隔										
5 空調・給排水配管の更新必要間隔										
6 主要設備機器の更新必要間隔										
2.4 信頼性										
1 空調・換気設備										
2 給排水・衛生設備										
3 電気設備										
4 機械・配管支持方法										
5 通信・情報設備										

3 対応性・更新性				0.2	3.8	0.29	-	-	-	3.8	
3.1 空間のゆとり		②	事務所:階高4m、整備場:7.9m 事務室:壁長さ比率=0.23、整備場:壁長さ比率=0.12 整備場(ストックヤード):7800N/m ²	0.3	4.6	0.31	-	-	-		
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	3.0	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	4.0	0.40	-	3.0	-	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	4.0	0.31	-	3.0	-	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.0	0.38	-	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)						0.36	-	-	-	1.5	
1 生物環境の保全と創出		独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮		独自④		-	2.0	0.40	-	-	-	2.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	1.5	0.30	-	-	-	1.5	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		-	2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上				-	1.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性										3.3	
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	3.7	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI=0.84	3.0	4.6	0.24	-	-	-	4.6	
2 自然エネルギー利用			トップライト	3.0	4.0	0.14	-	-	-	4.0	
3 設備システムの高効率化			BEI=0.69	3.0	4.1	0.42	-	-	-	4.1	
4 効率的運用				0.2	2.0	0.20	-	-	-	2.0	
集合住宅以外の評価				1.0	2.0	1.00	-	-	-		
4.1	モニタリング			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2	運用管理体制			3.0	1.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1	モニタリング			-	3.0	-	-	-	-		
4.2	運用管理体制			-	3.0	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.0	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水			節水器具	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	2.7	0.63	-	-	-	2.7	
2.1 材料使用量の削減				-	2.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	-	3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	事務所:スチールパーティション採用、整備場:躯体表し	3.0	4.0	0.24	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.6	0.22	-	-	-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	4.0	0.68	-	-	-		
1	消火剤			-	-	-	-	-	-		
2	発泡剤(断熱材等)		事務所:グラスウールを使用、整備場:発泡性断熱材を未使用	-	5.0	0.50	-	-	-		
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.1	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率81%	-	3.7	0.33	-	-	-	3.7	
2 地域環境への配慮				0.3	2.6	0.33	-	-	-	2.6	
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善				-	2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25	-	-	-		
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-		
2	汚水処理負荷抑制		整備場:油水処理槽の設置	-	4.0	0.25	-	-	-		
3	交通負荷抑制	独自	適正サイズの乗り入れ3か所	-	4.0	0.25	-	-	-		
4	廃棄物処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	騒音	独自		-	3.0	1.00	-	-	-		
2	振動	独自		-	-	-	-	-	-		
3	悪臭			-	-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	砂塵の抑制			-	3.0	-	-	-	-		
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			-	3.0	0.70	-	-	-		
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-		

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策			3.7
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.7	0.10
② 資源の有効活用			2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.8	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
③ 敷地内の緑化			1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.11
			外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 愛知日野自動車小牧営業所

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路に対して視認性の高い大きな庇 ・来客エリアはガラス張りとし、明るく入りやすい事業所を演出
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務所は全面ガラスで昼光率確保 ・整備場はトップライトで昼光利用 ・整備エリアは自然換気のできるオーバースライダーによる全面開口
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務エリアはOAフロアで可変性確保 ・自販機を設置した食堂 ・整形な事務所、整備場
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・周辺に合わせた建物の高さ ・防犯カメラの設置
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・BPI=0.84 ・BEI=0.69
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・節水器具の採用 ・スチールパーティションの採用
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・油水处理槽の設置 ・適切な乗り入れ路の設置
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>